

## 勸業省、高速道路「改築計画」に公的資本を導入する案を検討

掲載日	2010年2月26日
国名	スペイン
分類	道路事業全般
出典	AECarretera
タイトル	Fomento estudia dar entrada al capital público en el ‘plan renove’ de autovías

勸業省は、第一世代の高速道路のコンセッション契約の改定をより魅力的なものにするため、Seitt (国営陸上交通インフラ公社、Siciedad Esatatal de Infraestructras del Transporte Terrestre)を通して資金を調達する方式を検討している。その対象となるのは、A-3の第1区間とA-4の第3区間で、予算はそれぞれ3億(ユーロ)前後になる見込みだ。

新たなリスク分配方法は建設業者たちの間で好ましく思われており、あとはブリュッセル(欧州委員会)の承認を待つのみである。

建設業界は、ホセ・ブランコ勸業相が、議会終了までに民間企業の参入を促す目的で、150億ユーロという異例の投資計画を提出することを期待している。おそらく、環境影響評価報告書や土地の収用、その他障害はわずかで、これらの計画への資本投入に対しては、特に反対意見も懸案事項もなく、入札になると見られる。

信頼できる情報筋によると、ポイントは、勸業省の外郭団体である公益企業 Seitt が融資に参入するかどうかである。Seitt が参入した場合、建設会社の出資額は減少すると見られている。業界の情報筋は、請負業者が短期の収益を追求している一方で、修繕工事ではわずかな利益しか得られないためだと説明する。つまり、自身の資金をより多く投入しても、利益の面ではより小さくしかならないのである。

現在の流れでは、民間金融機関は資金の大部分を負担する準備ができていないので、Seitt が一部を負担することにより、それぞれの負担を軽減する見込みだ。勸業省が提案する概要は、EIB(欧州投資銀行)が必要資金のおよそ33%を、民間金融機関が同じく33%を提供し、残りの3分の1はSeittとそれぞれの高速道路のコンセッション会社によって負担されるべきというものである。このモデルは、会社の出資金が少なくて済み、かつ手元資金で支払い可能で、個別の交通需要に影響されにくいいため、企業には好意的に受け入れられると見られる。最終的には、ブリュッセルが、それぞれの関係者によって負担されるリスクを検討して判断する。

第一世代の高速道路の整備計画は、2007年に最初の10区間(999キロメートル)の整備に33億5000万ユーロを割り当てた。他の6区間(全長523キロメートル、入札予算約15億ユーロ)は、保留にされた。現在、勸業省は2区間の入札を終えている(マドリッド～クエンカ間のA-3、及びA-4)。A-5とA-6に影響を与えると考えられる他の4区間の入札は、もうしばらく後になるだろう。

訳注:

スペインでは、2009年現在約13,500kmの高速道路があり、このうち、約22%が有料でアウトピスタと

呼ばれ、残りの約 78%が無料でアウトピアと呼ばれる。アウトピスタは勸業省と民間会社が競争入札によりコンセッション契約を締結して、建設管理を行っている。Seitt は 2005 年に勸業省によって設立された組織であり、高速道路への投資の管理と民間会社との調整、政府から民間会社への支払の責任を負っている。